

# フォレスト in Nagano

長野県林業労働力確保支援センターだより



共同就職説明会 面談会場「テクノプラザおかや」

## 第62号

### 内容

- ・共同就職説明会 ..... 1
- ・認定事業主・雇用管理者研修会 ..... 2
- ・林業就業相談会（1日コース）&林業就業支援講習（4・17日コース） ..... 4
- ・長野県林業の就業者紹介 ..... 6
- ・「緑の雇用」現場技能者育成推進事業について ..... 9
- ・事故が起きたら ..... 10

## 平成29年度 共同就職説明会 開催

平成29年度の共同就職説明会は、第1回を9月2日(土)に、第2回を2月4日(日)に、ともに岡谷市「テクノプラザおかや」で開催しました。

本年は、のべ42事業体から75名の求人がありました。この求人に對し、85名の求職者にご来場いただきました。第1回の開催結果は、18事業体から35名の求人に対し、10名の採用決定または採用予定となりました。また、第2回の開催結果は、24事業体から40名の求人がありました。採用決定までにはもう少し時間がかかります。

今年度は、他業界の人手不足もさることながら林業界の人手不足はより深刻です。

林業への就業を希望する方は皆一様に「自然の中で働きたい」、「50年100年先の将来に向かって、子供達のために働きたい」などとの大変ありがたい言葉をいただいております。林業界においても、こうした皆さんの納得できる待遇改善が望まれるところです。

## 共同就職説明会に参加された求職者に対するアンケート (第1回と第2回合計)

### アンケート回答者 (回答率)

説明会参加者	回答者	回答率
85	70	82%

### 問1 どちらから参加されましたか。

県内	県外	合計
51	19	70

【県外参加者内訳】 ○内数字は人数  
 東京都⑥、茨城県②、埼玉県②、秋田県①、栃木県①、山梨県①、新潟県①、愛知県①、兵庫県①、石川県①、京都府①、神奈川県①

### 問2 あなたの、年代を教えてください。

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
人数	7	19	19	17	6	2	70

### 問3 この説明会に参加された動機を教えてください。(※複数回答あり)

- ①林業の仕事をやりたい..... 50人
- ②林業について知りたい..... 26人
- ③夏は庭木の手入れ、冬の仕事を探しています。林業に興味があり参加させていただきました..... 1人

### ★一口メモ★

#### 《共同改善計画に伴う委託募集》

「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づき、事業主の知名度不足を補い、募集人数等を多くすることによる求職者へのアピール度を高めるため、長野県林業労働力確保支援センターと共同で改善措置計画の認定を受けた事業主に限り、当支援センターに林業労働者の募集を委託できます。

# 認定事業主・雇用管理者研修会

認定事業主及び雇用管理者を対象に、労働災害撲滅に向けたリーダーシップ構築、並びに雇用管理の改善や事業の合理化に向けた意識啓発に関する基調講演を聴講し、演題に併せた検討課題にてグループワーク意見交換方式による研修会を開催しました。

本年度は、県下2会場で異なる講演者により基調講演をいただきました。研修会では、講演内容に関連した検討課題について参加者相互にて熱心な意見交換を行い、明日への事業展開の礎となりました。

開催日	開催場所	参加事業体	参加人数	来賓、助言者
平成30年1月16日	上小森林センター (上田市)	26	36 (26)	長野労働局 職業安定部 地方障害者雇用担当官 雇用指導係長 高山はるみ 様
平成30年1月23日	もくりゅう館 (安曇野市)	30	42 (32)	長野県 林務部 信州の木活用課 担当係長 上田 岳義 様

( )内の数字は認定事業体からの参加人数

## 講演者紹介



### 講師プロフィール

#### 塚原キャリアコンサルタント事務所 代表 塚原 昭雄 さん

1944年(昭和19年)生まれの信州男児。

労働基準行政に約35年従事し、県内の製造業、建設業等多くの現場に赴き行政指導、現場調査(墜落・転落・はさまれ・巻き込まれ、中毒等種々の重大災害)、労災認定調査等、現場主義に徹した災害防止活動(メンタルヘルス関係を含む)について、希望される事業場への個別訪問指導、安全衛生大会等のOFF-JT等を行う。

【資格】RSTトレーナー(職長その他現場監督者に対する安全衛生教育を実施する講師)、第1種衛生管理者、日本産業カウンセラー協会認定 産業カウンセラー、日本産業カウンセラー協会認定 キャリア・コンサルタント、交流分析士

【現在】林材業労災防止協会 労働災害専門調査員、建設業労働災害防止協会会长野県支部 専属講師

## 基調講演要旨(開催日1月16日)

### 演題 「安全は経営トップの決意から」～労働安全の見える化～

労働基準行政に従事された数々の労働災害実例を経営者側から、従業員側から、災害に遭われた家族の側から、そして被災者本人側からの貴重な体験談を静かに丁寧なことばで災害の悲惨な状況を淡々と話されました。災害の状況を想像し会場は一時「シーン」となる場面が続きました。講師ご自身として被災者本人が入院している病院へ出向いたとき被災者は家族の前で「俺は、無念だ！」と小声ながら腹の底から叫んだそうです。この被災者は数日後亡くなられた。と講師が語られたとき研修会場の空気が止まりました。

重篤な労働災害により家族が失うもの。経営者が失うもの。そして高額な林材業の民事損害賠償事例と経営者層の業務上過失傷害罪による送検事例を参加事業体は緊張した面持ちで拝聴していました。

経営者層は、日々「安全が第一」、「労災はあってはならない」という意識と行動をしているが、従業員側に伝わっているか?当初は伝わっていたが現在はマンネリ化していないだろうか?

グループワークを通じて他社の災害防止活動を自社に取り入れることができるか否か相互に話し合う場としての良い機会にしていただいたのではないでしょうか。

【講演後、講師指導の下グループワークを行い、各班の代表から検討課題について発表していただきました。】

- ①経営トップは安全理念・方針(文書化)をどのように示しているか。
- ②その方針はどのようにして従業員に浸透させているか。
- ③現場管理者は、その方針をどのように作業に活かしているか。
- ④経営トップは、中核となる現場管理者を育成し、どのようにインセンティブを与えているか。
- ⑤経営トップ及び現場管理者は、作業者に対し、モチベーションの継続をどのように行っているか。



研修会場（上小森林センター）風景



4班に分かれてグループワーク（上小森林センター）風景

## 講演者紹介



### ■講師プロフィール

#### 山梨県富士山科学研究所 環境共生研究部 研究員 藤野 正也さん

1976年(昭和51年)生まれ。京都大学博士。専門社会調査士。専門は林業経済学、林業経営学、統計学。

2002年ごろより京都府の日吉町森林組合に着目し、21世紀の森林管理・林業経営について研究を行う。その後、システム会社勤務を経て2009年に株式会社フォレストミッションへ入社。同社では、事業部長として林業経営コンサルタントに従事。全国各地の森林組合・林業事業体を対象に、事業計画立案から現場管理、コスト管理などの事業管理全般について講義やコンサルティングを行う。

また、森林施業プランナー協会事務局として森林施業プランナー認定制度の構築に携わったほか、日本型フォレスター育成事業においてプロセスマネージャーとして研修を進行するなど、林業界の人材育成に関わる。

2015年11月から2017年7月まで、京都大学農学研究所に特定研究員として在籍。2017年8月から現職。京都府立林業大学校客員教授、高知県立林業大学校特別教授、岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師など歴任。

## 基調講演要旨(開催日1月23日)

### ■演題「現場力を引き出す経営者の考え方」

経営者が優秀であっても経営は良くならない。先ずは林業事業体として森林整備の現場があり、そして現場で働く林業技能者が居なければ始まらない。経営者は林業技能者を各々評価して各自にいくら給与を与えるか決定している。しかし、何を評価するかは経営者各々により考えが異なっているのが現状である。(例えば、仕事が早い、部下をまとめることが優れている、間違いない仕事をする等々)この様な経営者サイドの調査・研究のノウハウは広く色々出版されている。

ところが「現場の人がどういうことを要求しているか」の調査・研究はほとんどなされていない。ありとあらゆる方面を調べたところ、「独立行政法人 労働政策研究・研修機構」が2012年に発表した「職務構造に関する研究」を探し出した。膨大なアンケート調査をまとめ、他業種の現場技能者と比較すると、林業技能者には生物・地理・土木に精通し、屋外にて機械や道具を使い実際的な活動を好み、自ら作業の意思決定を行い、自主的に業務を遂行できる人の多いことが判った。

この様な林業技能者と一緒に現場力を上げるために、林業技能者の①個人の能力 × ②やる気 × ③しくみを向上させる必要がある。①は適切な指導があれば伸びる。②は給料アップ、役職アップ、班(配置)換え、褒める(目標達成時、社内表彰等)。③は仕事の進め方としてトップダウンではなく皆で話し合い結論を出し最終的に経営者が決定し責任は経営者が取る。そして「皆で頑張ろう!」と一致団結の雰囲気が出れば最高である。

特に経営者の皆さんにお願いしたいことは、「現場の人の話を聞く時間を作ること」と「皆さんの会社で経営理念・経営ビジョンを明文化すること」の2点である。

【最後に「あなたの会社では何を大切にしていますか?」と参加事業体へ問い合わせ、基調講演が終了しました。】



講師 藤野 正也さん(もくりゅう館)講演風景



グループワーク(もくりゅう館)会場風景

## 認定事業主・雇用管理者研修会を終えて

2日間の研修会を終えて、県下林業認定事業体77事業体の内、56事業体、58人の出席をいただきました。

今年度の研修会は、2会場(別日)で行い、異なる講演者が異なった演題にて基調講演を行いました。講演終了後引き続き講演内容に関連する検討課題を参加者相互にて意見交換(グループワーク)を行い各々事業体の善し悪しの実態を確認できる企画にしました。このような開催方法にした結果、参加事業体は参加したい日(両日参加者もいました)を選べることとなり多数の参加者に出席いただきました。

参加者アンケートでは、同じ林業経営者として、他社の安全・仕事等への取組み、それぞれの事業体の抱える問題点等を直接お聞きすることができました。経営者の意見交換の重要な場、単に受け身でない参加ができる良かった。とご意見をいただきました。

# 林業就業相談会 & 林業就業支援講習

(単位:人)

コース	項目	定員	申込人数	参加人数	参加者内訳						県外参加者内訳	
					県内		県外		計			
					男	女	男	女	男	女		
林業就業相談会 (H29.7.14実施)		25	15	12	5	1	4	2	9	3	愛知：2人、東京・神奈川・千葉・埼玉： 各1人 【1都4県】	
4日間コース (H29.7.25～7.28実施)		20	16	13	5	1	7	0	12	1	東京：3人、千葉・静岡・岐阜・愛知： 各1人 【1都4県】	
17日間コース (H29.8.7～9.2実施)		25	22	18	9	1	8	0	17	1	東京・埼玉・栃木・茨城・静岡・愛知・ 四賀・大阪：各1人 【1都1府6県】	
合計 (H29年度)		70	53	43	19	3	19	2	38	5	東京：5人、愛知：4人、千葉・埼玉・ 静岡：各2人、神奈川・栃木・茨城・岐阜・ 滋賀・大阪：各1人 【1都1府9県】	
合計(参考) (H28年度)		75	70	53	19	1	28	5	47	6		
					20		33		53			

★1 全コース定員総数70人の内53人（76%）が申込。その内、43人（81%）が参加した。

★2 全コース参加者43人の内、21人（49%）が県外で東京都、大阪を始め11都府県から参加された。

★3 女性参加者は、林業就業相談会3人、4・17日間コース共に1名ずつであった。

★4 昨年（H28）度の参加者53人の内38%が県内参加者。本年（H29）度の参加者43人の内51%が県内参加者。



★林業就業相談会【長野森林組合 北部支所】

森林整備の現場で実際に使われている林業高性能機械（フィンランド製ホイル式ハーベスター）による伐倒と造材の作業を初めて見る受講者



★林業就業相談会【長野県森林組合連合会 北信木材センター】

山から搬入された丸太を流通基地（北信木材センター）にて選木機を活用し長さ・径級・品等で選木。ジャストインタイムにて販売を行っていること等の説明を受ける受講者



★4日間コース【長野県林業総合センター】

木材伐採には欠かせないチェーンソーの仕組み、構造を講師（林業士）から説明を受ける受講者



★4日コース【平澤林産(有)】

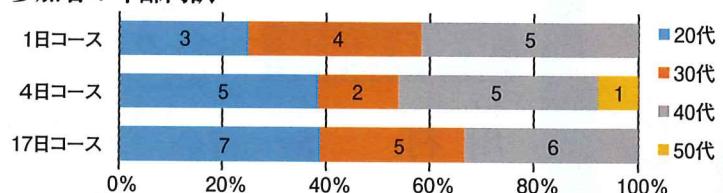
傾斜のきつい素材生産現場（国有林）にて高性能林業機械を駆使した伐採を視察する受講者

# 1日・4日・17日コースの参加者に対するアンケート

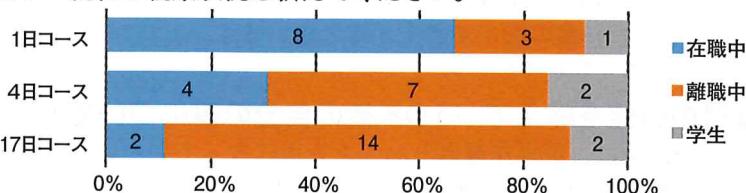
アンケート回答者（回答率）

コース種類	参加人数	回答人数	回答率
1日コース	12	12	100%
4日コース	13	13	100%
17日コース	18	18	100%
合 計	43	43	100%

参加者の年齢内訳



問1 現在の就業状況を教えてください。



## ★一口メモ（問1）★

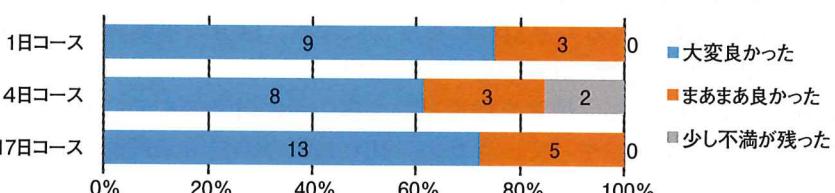
全コースの回答者43人の内、在職中の参加者が14人（33%）、離職中の方が24人（56%）であった。但し、17日間コースを見ると18人の参加者の内、離職中の参加者が14人（78%）を超えていた。

問2 「在職中」の方にお尋ねします。現在の職業を教えてください。

製造業	公務員	その他	合計
3	3	8	14

★その他は、建設業、運輸交通業、医療・介護福祉業、金融・保険業、団体職員、サービス業、英語教師、翻訳業

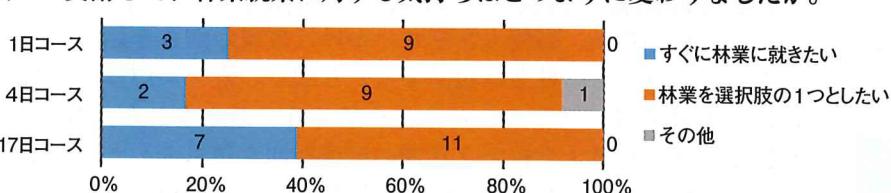
問3 受講した感想はいかがでしたか。



## ★一口メモ（問3）★

受講して「大変良かった」、「良かった」と回答された方は、95%であった。残り5%の方は、不満が残った。

問4 受講して、林業就業に対する気持ちはどのように変わりましたか。



## ★一口メモ（問4）★

受講して「すぐに林業に就職したい」、「林業を就職の選択肢」と回答された方は、98%であった。



★17日間コース【長野県林業総合センター】  
チェーンソーを使用した造材の研修



★17日間コース【長野県林業総合センター】  
トビを使った梱積（はいづみ。木材を積み重ねる作業）の研修

# 長野県林業の就業者紹介



フォレストワーカー  
1年生

(株) 笹崎材木店

かわ むら たかし  
川 村 岳

張っているのではないかと疑問に思うことがあります。現状としては補助金がないと仕事ができないことがあります、何時か補助金に頼らずに仕事ができるようになってほしいです。補助金がなくても仕事ができるようになれば、今まで見えてこなかった林業が見えてくると思うし、事業体ごとに様々な林業の形ができ上がると思います。



フォレストワーカー  
1年生

細川木材(株)

みづ い たか し  
三 井 貴 史

チェーンソーを使った作業も同じで、「こいつになら任せられる」と言われるようになる。自分の事業体には自分が目指している先輩方がいるので、とても手本になる。早く技を盗んで自分のものにしたい。

集合研修で知り合った人達との繋がりをこれからも大切にして、情報交換などして良い所は自分のものにしていきたい。1日1つでもいいから昨日の自分よりも成長したと思えるようにやっていきたい。10年後に今の自分が理想としている姿になれるようにこれから頑張っていきたい。



フォレストワーカー  
1年生

(有)高遠興産

かみ じま ゆう き  
上 島 佑 基

林業に就いた友人のエピソードを聞いていると、林業職への憧れの意思を捨てることができず、転職活動を始めてほどなくして林業界へ転職することができました。

いざ、現場で仕事をすると、技術や知識など足りないことだらけで、未熟さを痛感するとともに、日々の達成感、充実感は前職の比ではありません。世間では衰退している産業として見られていますが、従事した者にしか味わえない快感を求め、日々仕事に精進しています。

現場で作業していると、広くイメージを変えることや木材の需要を増やすことはできませんが、狭いコミュニティーの中では宣伝することができるので、私は近い所から林業の楽しさを伝え、安全に健康に活躍することが使命なのかなと考えています。世間一般的にはまだまだ「衰退した、潰れかけの産業」というイメージがありますが、林業関係者それぞれの立場から、自分達から、前向きに考えて、復活の「ふ」の字を広め、3Kの林業から「給料安い」のKだけは、取り扱えるよう期待したいです。危険のKが取れる頃には、ロボットに仕事そのものを取られてしまうので、そのKは一定のレベルで残すほうが良いのかなと感じています。

## 「1年目の研修を終えて…林業界に期待すること」

林業界に期待することは大きく分けて2つあります。

1つ目はなりたい職業ランキングにTOP10入りしてほしいことです。林業自体の魅力は他の職業に負けていないと思います。仕事のやりがいや、林業の奥深さなどは絶対に他の職業以上に多いと感じます。また、林業に憧れを持てるようになってほしいです。

2つ目は補助金に頼らなくてもいい林業に戻ってほしいことです。仕事をしていく上で必ずといっていいほど補助金が関係してきます。補助金は今の林業では必要かもしれません、それがかえって林業の足を引っ張っています。

張っているのではないかと疑問に思うことがあります。現状としては補助金がないと仕事ができないことがあります、何時か補助金に頼らずに仕事ができるようになってほしいです。補助金がなくても仕事ができるようになれば、今まで見えてこなかった林業が見えてくると思うし、事業体ごとに様々な林業の形ができ上がると思います。

## 「1年目の研修を終えて…10年後の自分の姿について」

10年後の自分は、現場作業者として1人前になっていたい。

今は頼まれた仕事を考えながらやっているが、まずは次にやらなきゃいけない仕事を頼まれる前にできるようになる。そして、その先の作業の効率まで考えて作業できるようになる。

重機での作業がメインとなるので、今扱っている重機の操作を全て覚えて、誰にも負けないオペになる。その為には自分から積極的に作業をさせてもらったり、常に上手くなりたいとか、効率的に作業したいという向上心を忘れずに持っていたい。

10年後には自分自身が林業界に期待すること

私は、12年前、高校入学をきっかけに林業の勉強を始めました。当時から「これから林業は復活する」と周りの方々が口にしており、期待あふれ林業職に就くことがすごく楽しみがありました。3年を経て、高校卒業後も林業大学校で2年間の勉強期間を積みましたが、暗く元気のない話ばかり。自給率の問題や価格低迷などなど復活の「ふ」の字も聞こえませんでした。

その後、5年間は他業種の仕事に就きました。この間、林業については、体の面や待遇の面など不安も多く、逃げ腰になっていました。しかし、林業に就いた友人のエピソードを聞いていると、林業職への憧れの意思を捨てることができず、転職活動を始めてほどなくして林業界へ転職することができました。

いざ、現場で仕事をすると、技術や知識など足りないことだらけで、未熟さを痛感するとともに、日々の達成感、充実感は前職の比ではありません。世間では衰退している産業として見られていますが、従事した者にしか味わえない快感を求め、日々仕事に精進しています。

現場で作業していると、広くイメージを変えることや木材の需要を増やすことはできませんが、狭いコミュニティーの中では宣伝することができるので、私は近い所から林業の楽しさを伝え、安全に健康に活躍することが使命なのかなと考えています。世間一般的にはまだまだ「衰退した、潰れかけの産業」というイメージがありますが、林業関係者それぞれの立場から、自分達から、前向きに考えて、復活の「ふ」の字を広め、3Kの林業から「給料安い」のKだけは、取り扱えるよう期待したいです。危険のKが取れる頃には、ロボットに仕事そのものを取られてしまうので、そのKは一定のレベルで残すほうが良いのかなと感じています。



## フォレストワーカー

2年生

平澤林産(有)

し みず のり あき  
清水 典 明

### 【2年目の研修を終えて】

2年目の集合研修を終えて、他の事業体と交流できたことで、安全に対する意識や技術、機械化などの格差を感じました。私の所属する会社では社長を始め先輩方は「挑戦はするな」「危ないことはよせ」と私に注意してくれます。しかし、集合研修でヒヤリハット発表を聞いていると、禁止・危険な作業を会社または先輩、班長の指揮のもと行われていることを知り嘆息しました。なぜその様な危険で禁止されている作業をするのか疑問に思い聞いてみると「適切な道具を持っていなかった」「手間を掛けたくなかった」など様々ありました。しかし彼等と話すことは「林業とはそういう仕事だ」と誇らしげに、また、おどけた調子で話すことであるように思いました。

彼等も私もこれから先輩になっていく。

プロとして仕事をする限りヒヤリハットはミスであり恥ずべきことである。このような私の林業に対する認識ができたのも、しっかり注意し本当に危険な作業と危険のように見える作業の線引きを的確に教えていただいた先輩方や会社の方針に他なりません。

私は後輩が危険で禁止されている作業をしようとするときに「挑戦はするな」「危ないことはよせ」としっかりと注意でき、その後に基準になるような線引きをしっかりできる先輩になれるようガババります！



## フォレストワーカー

2年生

(株)柳沢林業

ふじ さわ りょう た  
藤澤 良太

### 【2年目の研修を終えて】

#### 1. 良い復習(おさらい)の機会となった

FW 1の時の研修は、現場経験の少ない中で受講していたので、ぼんやりとしかイメージできないことや、理屈はわからても上手く消化しきれていないことが少なからずありました。しかし、FW 2の研修では、FW 1の頃に比べて自分が現場で見聞きしたことや、実際に経験したことが増えたこともあって、より実感の伴った研修になったと感じています。意識面でも、現場で自分に何ができるかを実感した上で研修でしたので、より意識の高い状態で研修に臨むことができたと思います。

#### 2. 自分の立ち位置や、成長度合いを感じる機会となった。

経験年数がほぼ横並びの仲間たちと一緒に受講する形なので、自然と自分が仲間と比べてできていること・いないこと、経験したことのあること・ないことなどを、感じられる機会になりました。

他の研修生たちの話を聞くと、所属先の要請によって求められている仕事の内容もそれぞれで、その中で自分や自分の所属先がどういう特徴を持っているのか、周囲の同業者からはどういう印象で見られているかなども、客観的に見聞きすることができ、今後の仕事にも張り合いが出てきそうだと思いました。

#### 3. FW 2を受けて思うこと

私は他業種、他業界からやってきたいわゆる“転職組”なので、個別の企業や団体を問わずして研修を受けられる「緑の雇用」という制度は、本当に貴重だし、是非これからも続けてほしいと思います。かく言う私も、林業に転職しようと踏み切ったのは、こういう制度があるなら自分でも林業できそうかな、と思えたことが影響していました。なので、今後新しく林業をやろうとする人たちにも、引き続き間口が広く、より充実した研修になってほしいと願っています。

いくつか注文があるとすれば、実地研修では、各グループ5人程度の人数に対して講師が1人という形が取れれば、より伝わりやすい研修になると思いました。(今年の私たちのグループは、受講生全員が多かったこともあり、1グループ8名程と若干多かったです。)

それから、座学・講義の時間の中に、林業の「歴史」を学ぶ機会があったら良いと思いました。林業の起源とか、歴史的な変遷、いまの林業の形になった経緯など、出来れば林業現場OBなどの話も交えながらお話を聞く機会があっても良いと思いました。



## フォレストワーカー

3年生

大平林業建設

あん どう しゅう いち  
安藤 秀一

### 「3年間の研修を終えて」

3年目の研修を終えて、ここでその良し悪しを感想として列記しなくとも、研修生それに身についたものがその評価だと思います。何はさておき、3年間研修を受講させていただき、事業体、講師の方々、財団の方々感謝しております。

研修を通して、林業作業者として少しはできたと自分なりには思っています。同期の皆も目を見張る成長ぶりだと感じています。研修だけでなく、それが実際の現場で作業に従事していて、OJTによるスキルアップも大きいのだと思います。

今後はFWとして林業の現場を支えていく優秀な人材ばかりです。高性能林業機械がどんなに導入されようが、やはり作業従事者がいなければ林業は成り立たません。林業の未来を考えると、日本の人口が減っていく中で、林業が持続的に営まれていくためには、「山をつくる」以前に「人をつくる」人材育成が今一番必要です。この3年間の研修は、人材育成の目的に最も応えたものになっていると思います。

実際の現場での作業は過酷で危険を伴い、さらに高度な知識・技術・体力を駆使していく、だれでもできるというものではありません。

せっかく人材を育成したにもかかわらず、同期の皆の話を聞けば聞くほど、林業作業者の待遇の低さ・労働環境の劣悪さの話ばかりが聞こえます。これでは、優秀な人材はこの林業界から逃げていくばかりです。

林業を離れる人は、自発的にやめる人、やむを得ずやめる人、それぞれ金銭的・家庭的・身体的な事情など様々な状況があるのだと思います。が、少なくともこの研修で出会った同期の皆にはできる限り林業を続けてほしいと個人的には願っています。

そのためには、この思いは3年間変わらないのですが、今の林業現場で作業するすべての人の地位・待遇・環境が向上することが必須だと思います。

「人をつくる」この研修を受けさせていただき感謝するのと同時に、今後は林業作業者の地位・待遇の向上を推進してもらえるような研修の実施を期待しております。



## フォレストワーカー

3年生

南木曽町森林組合

はら  
原

つとむ  
努

### 「3年間の研修を終えて」

フォレストワーカー集合研修を終えて、率直に思ったことは、この研修に参加することができてとても良かったです。

職場も変わり、フォレストワーカー2年目を受けてから年数も経っていたので、3年目を受けられないと思っていました。職場、ご支援してくれた人達に感謝しております。

研修を通して、新しい林業仲間にも出会うことができました。他の事業体の人達、講師、財団の人達との話は刺激を受けます。特に講師の川島さんの講義は、とても考え深いことばかりでした。

林業を始めて1年～4年目は、山をより良くするためには、どのようにすれば良いのか考えたりしていましたが、年数が経つごとに、仕事に追われ作業をこなしていくことが多くなり、山をより良くすることなど、考えることが少なくなりました。川島さんは「ビジョンを持って、その先その先のことを考えて仕事をしていくべき」と強く言いました。そして、他の事業体の人達の山に対する情熱も高く、彼らとの会話の中で、自分は初心に戻ることができました。

この仕事に就いて一番最初に思ったことは、街の人達にも木の大切さを知って、慣れ親しんでもらいたいと思いました。この初心を忘れずにフォレストワーカー3年目で学んだことも活かし、地域・街の人達に発信できる人材になっていけるように努力していきたいです。

認定事業体に採用された新規就業者を対象に、森林整備や木材生産に必要な基本的知識・技術・技能を習得することを目的に3年間の集合研修を行っています。

研修修了者は、法律に基づき農林水産省の名簿に登録され、林業作業士となりそれぞれの認定事業体の基幹的技能者として活躍しています。平成29年度は、45名の林業作業士が誕生しました。



【現場管理】 高性能林業機械メンテナンス研修



【素材生産】 高性能林業機械による集材研修

就業支援講習  
(17日コース)

大北森林組合  
なかざとこういちろう  
中里幸一郎

共同就職説明会にて  
大北森林組合へ採用

### 「就業支援講習(17日コース) 受講にあたって…

#### なぜ林業の仕事を希望したのか」

林業には意味があると思ったからです。

短期的な利益だけを追うのではなく、長期的な視点で、自分が死んだ後まで見据えた仕事、孫の代さらにはその先まで引き継がれていく仕事をすることは、他の業種には見つけられない大きな魅力でした。

今後長く農村での生活をしていきたいと思っている中、山の持つ危険や利用法を学べ、かつ意義のある仕事に従事できることは、自分が求めていることと合致しています。環境保護・保全にも強く関心を抱いています。

自分にとって、山が産み出す「材」だけでなく、「機能」の部分にもスポットライトが当たれつつあることも、背中を押す一つのキッカケとなりました。

家族もあるため、正直金銭面での不安は残るもの、同時に今後社会の変化が期待される中、林業を取り巻く環境もまた良い方向に転じていくのではないかと希望的に考え、林業に就く道に踏み出しました。

【緑の雇用】のあゆみ 「森林・林業白書の概要」から

年度	概要	長野県 フォレストワーカー 修了者	1年	2年	3年
			1年	2年	3年
平成13年度	厚生労働省と林野庁が連携して緊急地域雇用創出特別交付金事業（いわゆる「緊急雇用対策事業」）を活用し「就業事前研修」を開始する。 就業希望相談者を対象に全国36都道府県で基礎コース（3,526人）、実技コース（2,880人）の安全を確保するための事前研修を実施した。 平成6年度から平成13年度までの新規林業就業者は年平均1,900人弱であった。	—	—	—	—
平成14年度	「緑の雇用担い手育成対策事業」（以下「緑の雇用」事業）を創設した。 「緊急雇用対策」で林業従事者を対象にOJT研修等を通じて本格就業と地域定着の促進を図る。全国で18,000人が「緊急雇用対策」で森林作業に従事した。	—	—	—	—
平成15年度	「緑の雇用」事業を実施。この事業により新規林業就業者は4,334人となる。 全国490の事業体で2,400人の「緑の研修生」が研修に従事した。	79	—	—	—
平成16年度	「森林・林業白書」に信濃町の取組（森林の保健休養機能「癒しの森」プログラム）が開始したことが掲載された。「緑の雇用」事業により新規林業就業者は3,513人となった。	56	—	—	—
平成17年度	平成15年度から実施した「緑の雇用」事業により新規林業就業者は2,843人となった。	42	—	—	—
平成18年度	2年目研修に技術高度化研修（風倒木、かかり木処理等）を取り入れた。 「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、2,421人となった。	35	37	—	—
平成19年度	森林施業プランナーを育成する研修を実施。 「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、3,053人となった。	36	39	—	—
平成20年度	3年目研修に施業効率化研修（低コスト作業システム、施業プラン提案等）を追加した。 「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、3,333人となった。	66	28	15	—
平成21年度	「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、3,941人となった。	97	44	16	—
平成22年度	10トン積み程度のトラックが走行する「林業専用道」と林業機械が走行する「森林作業道」の規格を設け、丈夫で簡易な路網の整備を推進。 「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、4,014人となった。	61	71	14	—
平成23年度	①新規就業者（FW 1～3年）の研修に加え、新たに②現場管理責任者（FL）の研修、③統括現場管理責任者（FM）の研修を加えた。また同年、研修修了者の習得レベルに応じて農林水産省が備える名簿に登録する制度が創設された。 「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、3,181人となった。	51	56	63	—
平成24年度	「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、3,190人となった。	51	46	63	—
平成25年度	「労働安全衛生細則」の改正に伴い高性能林業機械の特別教育を必要とする業務に追加、施行されることによりFW研修にも加えられた。 「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、2,827人となった。	53	43	41	—
平成26年度	「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、3,033人となった。	65	44	40	—
平成27年度	研修生が増加したため、計画書の助成額が予算額を大幅に超過した。 「緑の雇用」事業により新規林業就業者は、3,204人となった。	54	50	33	—
平成28年度	前年度は予算額が大幅に超過。当年度計画書の提出に先立ち、事業体からの登録申請、審査。登録後、予算額に見合う研修生の割当て（事前審査制度）を導入した。	70	37	29	—
平成29年度	「緑の雇用」事業内容の見直し（FL、FMを指導員として活用等）を行った。	44	61	45	—
					合計 860 556 359
					総合計 1,775

#### 集合研修・OJT研修実績

区分	事業体数	当初人数	修了者人数	減員人数	集合研修日数/日程	OJT研修日数（上限）
FW	1年目	29	44	44	0	28日間
	2年目	35	67	61	6	25日間
	3年目	29	47	45	2	24日間
	小計	93	158	150	8	
F L	11（県内）	15（県内）	15（県内）	0	16日間	9/25～11/2
F M	1（県内）	1（県内）	1（県内）	0	10日間	9/25～12/1
合計	50	174	166	8		

- (注) 1. FW 1年からFW 3年の集合研修日数/日程欄は、研修者が多いため2班（2段記載）に分けて集合研修を行った。  
 2. 減員人数は、職場での仕事の都合上、研修が受講できなくなった者等である。  
 3. FW：林業作業士（フォレストワーカー）、FL：現場管理責任者（フォレストリーダー）、FM：統括現場管理責任者（フォレストマネージャー）。  
 4. F L、F Mは、他県と合同のブロック研修のため、県内参加者のみ記載。

# 事故が起きてしまったら

会社が積極的に安全衛生管理、安全衛生活動を行っていたとしても、労働災害が発生してしまう可能性があります。万一、作業場で労働災害が発生してしまったら、以下のように対応しましょう。

## 労働災害発生 対応フロー

労働災害発生

まずは落ち着いて！

(慌てて駆け寄って、二次災害など発生させないように)

### 現場対応

- ・被災者の救護 「フォレスト in Nagano」 第61号参照
- ・被災者の病院への搬送
- ・警察署・労働基準監督署への連絡（重大な労働災害の場合）
- ・被災者の家族への連絡（労働者名簿の確認）

### 事故状況の把握と原因調査

- ・警察署・労働基準監督署の現場検証立会い
- ・警察署・労働基準監督署の事情聴取への対応

### 労働基準監督署への届出

- ・休業4日以上：すみやかに労働基準監督署へ報告
- ・休業1～3日：4半期に1度、労働基準監督署へ報告

### 再発防止策の検討と実施

- ・設備や道具の改善
- ・作業手順書の改訂
- ・社内安全衛生教育の実施

また、もしものときに備えて、以下の事項を整理しておきましょう。

- ・応急手当、介護のための設備、道具の置き場所（の確認）
- ・消防・救急、警察署、労働基準監督署の連絡先、対応担当者
- ・労働者の家族などの連絡先（労働者名簿の確認）
- ・労働基準監督署への届け出や労災保険給付申請の方法など
- ・その他、会社独自の報告方法・様式など

参考：「厚生労働省 労働災害が発生したとき」から

### 編集後記

新しい年も早2ヶ月が過ぎ、皆様、本年の目標に向かって着々と頑張っておられることと推察申し上げます。

今年の干支は『戌（いぬ）』。縁起は何といっても、「安産」と「勤勉・努力」ですね。

「安産」といえば「安全」で災害の無い1年にしたいものです。経営者の皆様、どうか「現場の見回り」をお願いします。そして「勤勉・努力」からは「前向きに地道な努力を重ねること」ができる年のようにです。来年のことをいうと鬼が笑うといいますが、来年の『亥（いのしし）』年の縁起は「成長」。来年は今年の『戌年』次第ですね。

災害の無い明るい会社【安全第一】木下

発行者 〒380-0936 長野市岡田町30-16

一般財団法人 長野県林業労働財団（長野県林業労働力確保支援センター）

電話：026-225-6080 FAX：026-225-6557 <http://www.nrinrou.com/>